Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Effects of Landiolol Administration under Remifentanil Anesthesia on Heart Rate and Sympathetic Nervous Activity: A Single Blind, Randomized Control Study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐久間, 潮里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032654

主論文の要旨

Effects of Landiolol Administration under Remifentanil Anesthesia on Heart Rate and Sympathetic Nervous Activity: A Single Blind, Randomized Control Study

（レミフェンタニル麻酔下における心拍数と交感神経活動に対するランジオロール投与の効果：単一盲検無作為化対照試験）

東京女子医科大学麻酔科学教室
（指導：尾崎眞教授）
佐久間　潮里

Journal of Clinical Anesthesia and Management　Volume 4 - Issue 1, ISSN 2470-9956,（平成 29 年 1 月 15 日発行）に掲載

【要旨】

周術期β遮断薬投与が術後の発作性心房細動発症などを減らす。多くは術後も持続的に投与するデザインであるが、我々は不整脈を持たない患者において術中のみ超短時間作用性β遮断薬を漸増的に投与することで術後の交感神経抑制があると考え、術前後の心電図 R-R 間隔の解析から低周波数帯/高周波数帯パワー比（以下 LF/HF 比）を算出し交感神経活動の指標として評価した。待機的腹腔鏡下腎摘出術患者 20 名に対して全静脈麻酔下に術中短時間作用性β遮断薬ランジオロールを漸増的に投与した。術前後にホルター心電図を装着しそのデータより、LF/HF 比を算出比較した。術後結果はランジオロール投与群 1.84±0.79（コントロール群 2.68 1.66）で有意に低かった。両群間で術中の平均、最大、最小心拍数及び術後不整脈発症率に差はなかった。ランジオロールの術中投与は薬理学的効果がすでに消失していると考えられるにもかかわらず術後の R-R 間隔の変動に影響を及ぼした。